



# 講演Ⅰ

## 「日本の大学における 学生参画の現状と今後の 可能性」 —学生参画の意義に着目して—

全国私立大学FD連携フォーラム（JPFF） 2024年度  
シンポジウム

「学修者本位の教育の実現—学生参画の観点から」

日時：2024年6月15日(土)14:00～16:45

場所：龍谷大学深草キャンパス22号館101教室

共催：大学教育イノベーション日本（HEIJ）

講演Ⅰ 発表者：田中正弘（筑波大学）

# 本発表の目的

## ● 目的：

- 学生参画はなぜ必要なのか、その意義を確認する。
- その上で、学生参画の効果的な実施方法を参加者の皆さんと一緒に考える。

# 目次

1. 教員と学生の不幸な関係
2. 学生参画の概要とその意義
3. 日本の現状
4. 参画する学生
5. 今後の可能性



# 教員と学生の不幸な関係（1/3）



教員の意見：

私は一生懸命教えているし、日々の教育改善にも努めている。

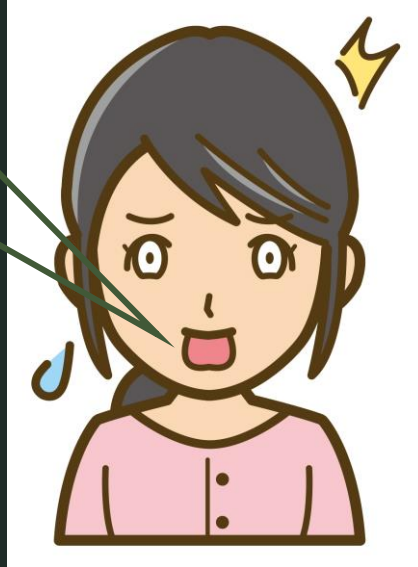
学生の意見：

私が理解できないのは教員の教え方が下手だからだ。  
予備校の先生はもっと分かりやすかった。



## 教員と学生の不幸な関係（2/3）

アンケートの  
回答結果が、  
全然反映され  
ない！



大学への期待が  
薄れていく、、

改善案を提示  
したのに、、  
無視された？



# 教員と学生の不幸な関係 (3/3)



教員

学生の不満は解消してあげたい。  
でも、**できないことも多々ある。。**



職員

分からないことがあるのなら、もっと  
**頼ってくれればいいのに。。**



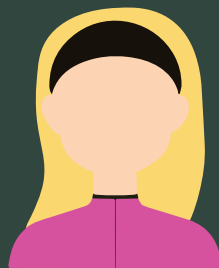
学生A

私は「**お客さん**」だから、サービスしてもらわないと！！



学生B

大学を変えるのは、  
「**めんどくさい**」！  
楽に単位が取れればそれでいい！



それぞれの思いが  
噛み合っていない。

# 不幸な関係の解消のために

- 三者（教員・職員・学生）間の不幸な関係の解消のために、何をすべきか？
  - 対話が重要！？（でも、どうやって？）



仮説

- 三者が（何らかの形で）**協同**して、学生の学びの改善（学習成果の向上）に務めることが、不幸な関係の解消につながる？
  - 協同＝**学生参画**が必要



## 2. 学生参画の概要と その意義

# 学生参画の三類型

- 学生参画の領域は、Healey, et.al. (2010: 22) の分類では、下記の三つに分けられる。
  - ミクロ： 学生個人や他の学生の学修活動への参画
    - ◆ 例：ピアサポートなどへの関与
  - メゾ： 質保証・向上プロセスへの参画
    - ◆ 例：学生FDなどへの参加
  - マクロ： 戦略策定（ガバナンス）への参画
    - ◆ 例：教員学生協議会などへの出席

出典：Healey, M., Mason-O'Connor, K. and Broadfoot, P., (2010) "Reflections on Engaging Student in the Process and Product of Strategy Development for Learning, Teaching, and Assessment: An institutional case study," *International Journal for Academic Development*, 15(1), 19-32.

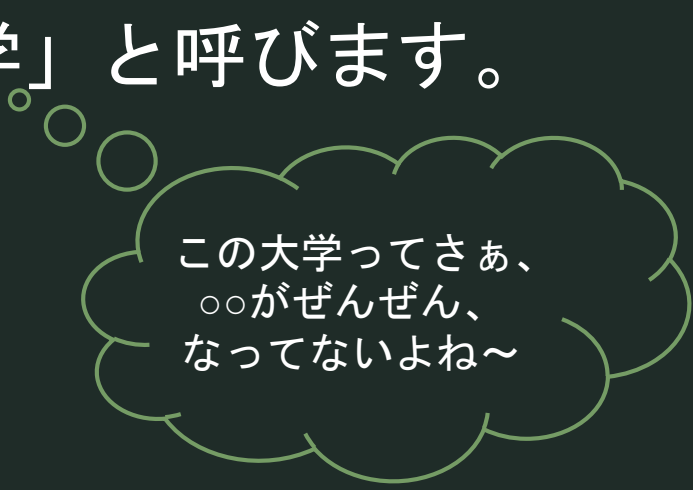
# 学生参画の定義

- 「学生参画」とは、Healey, et.al. (2010) の三類型に従って、
  - ① 学生個人および同僚の学習成果を最大化する目的で、または、
  - ② 大学教育の質を保証・向上させる目的で、あるいは、
  - ③ 大学の運営に学生・大学・社会の利益を反映させる目的で、学生が自らの労力や情報を大学に提供することである（田中 2018: 19）。

出典：田中正弘（2018）「日本の大学における学生参画—質保証への参画を中心として—」『大学研究』45、17-29頁。

# 学生参画の目標

- 学生参画の主な目標は、各学生の「所属意識」 (a sense of belonging) を醸成し、互いに共有することである (Brand and Millard 2019) 。
  - 所属意識の高い学生は、自らの大学を「うちの大学」と呼びます。
  - 低い学生は、「この大学」と呼びます。



この大学ってさあ、  
○○がぜんぜん、  
なってないよね～

# 印象的な学生

- 札幌大学の「札大おこし隊！」という学生FD組織の訪問調査の際に、印象的な男子学生と出会った。
  - 彼は奇抜な服装であったが温和な好青年に見えた。
  - しかし、他のメンバーによると、1年生の頃の彼は髪を金色に染め、目つきが殺気立っており、とても話しかけられる姿ではなかった。
- 彼曰く、「当時は大学に居場所がなく、全てがつまらなかった」このことで、学生FDに出会えた（他者に必要とされる＝所属意識を持てた）ことは、彼にとって人生の転換点だったのかもしれない。

出典：田中正弘（2018）「日本の大学における学生参画—質保証への参画を中心として—」『大学研究』45、17-29頁。

# 学生参画から得られる利益

- 学生参画から得られる利益には、先行研究によると、
    - 学生の所属意識の向上（Cook-Sather, et.al. 2017など）
    - 学習意欲の向上（Kumpas-Lenk, et.al. 2018など）
    - リテンション率の向上（Kahu and Nelson 2018など）
    - 就業力の向上（Macfarlane and Tomlinson 2017など）
    - 学生の大学経験の質の向上（Streeting and Graeme 2009など）
- などがある。

出典：Cook-Sather, A., Bovill, C. and Felten, P., (2014) *Engaging Students as Partners in Learning and Teaching: A guide for faculty*, San Francisco, CA: Jossey-Bass., Kahu, E.R. and Nelson, K., (2018) "Student Engagement in the Educational Interface: Understanding the Mechanisms of Student Success", *Higher Education Research & Development*, 37(1), 58–71., Kumpas-Lenk, K., Eisenschmidt, E. and Veispak, A., (2018) "Does the Design of Learning Outcomes Matter from Students' Perspective?", *Studies in Educational Evaluation*, 59, 179–86., Macfarlane, B. and Tomlinson, M., (2017) "Critical and Alternative Perspectives on Student Engagement", *Higher Education Policy*, 30(1), 1–4., Streeting, W. and Graeme W., (2009) *Rethinking the Values of Higher Education – Consumption, Partnership, Community?*, Gloucester: Quality Assurance Agency.

# 得られる利益の最大化

- 学生の役割は、Kay et.al. (2010) の分類によると、下記の四つがある。
  - ① 「評価者としての学生」 (Students as evaluators)
    - 役割：学内のアンケートなどに回答する間接的な情報提供者
  - ② 「参加者としての学生」 (Students as participants)
    - 役割：会議などに参加し、意見を述べる直接的な情報提供者
  - ③ 「パートナーとしての学生」 (Students as partners, co-creators and experts)
    - 役割：教職員と対等な立場で教育改善に関与する専門家
  - ④ 「改革者としての学生」 (Students as change agents)
    - 役割：教育改善を自ら立案し、その実現を主導する専門家
- Carey (2018) によると、上記分類の後者になるほど、学生参画から得られる利益がより大きくなる。

出典：Carey, P., (2018) “The Impact of Institutional Culture, Policy and Process on Student Engagement in University Decision-making”, *Perspectives: Policy and Practice in Higher Education*, 22(1), 11-18., Kay, J., Elizabeth, D. and Hutchinson, J., (2010) *Rethinking the Values of Higher Education-students as Change Agents?*, Gloucester: Quality Assurance Agency.

# 学生参画の意義

- 学生参画の意義は主に三つある。
  1. 学生個人にとって多様な利益がある（と欧米ではいわれている）。
    - 特に、所属意識の向上
  2. 学生全体の共益を増やせる（と欧米ではいわれている）。
    - ただし、学生の全体意見を反映させる仕組みが必要
  3. 大学にとって教育改善につながる（と欧米ではいわれている）。

例：  
学生の発言権の強化  
マイノリティ学生の支援

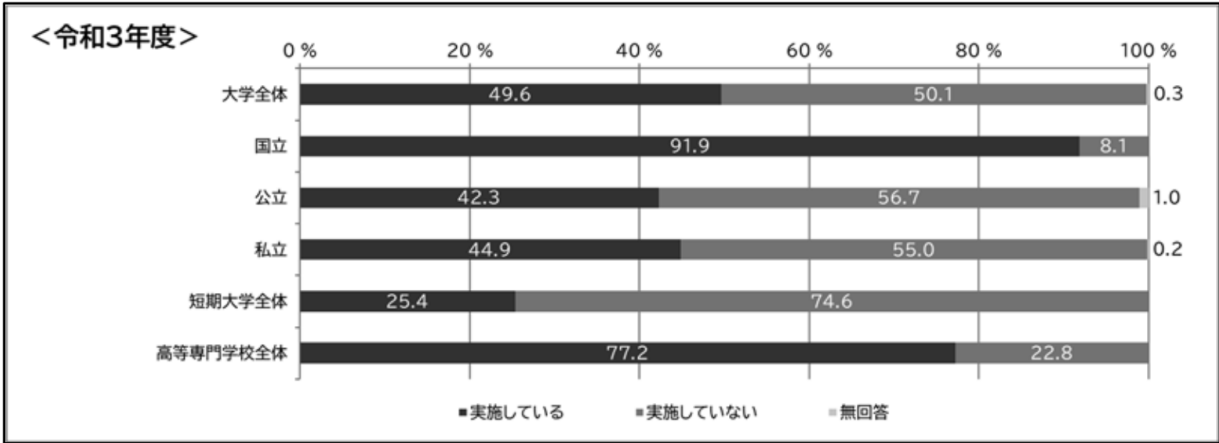


### 3. 日本の現状

# 日本の現状（概要）

- ミクロ： 学生個人や他の学生の学修活動への参画
  - ピアサポートなどの活動は広く普及している。
- メゾ： 質保証・向上プロセスへの参画
  - 内部（外部）質保証への学生参画の事例はあまりない。
  - 学生FDは衰退気味である。
- マクロ： 戦略策定（ガバナンス）への参画
  - 教員と学生の懇談会は多くの大学で実施されている。
  - ただし、意思決定会議への学生参画はほとんど見られない。

# ピアサポート（1/3）



【図18－①】

- ピアサポートを「実施している」と回答した割合は、大学全体で49.6%であった（2021年度）。

(単位: %)

|          |    | 令和3年度  |         |     | (参考)令和元年度 |         |     |
|----------|----|--------|---------|-----|-----------|---------|-----|
|          |    | 実施している | 実施していない | 無回答 | 実施している    | 実施していない | 無回答 |
| 大学全体     |    | 49.6   | 50.1    | 0.3 | 50.4      | 49.4    | 0.3 |
|          | 国立 | 91.9   | 8.1     | 0.0 | 87.2      | 12.8    | 0.0 |
|          | 公立 | 42.3   | 56.7    | 1.0 | 40.2      | 59.8    | 0.0 |
|          | 私立 | 44.9   | 55.0    | 0.2 | 46.7      | 53.0    | 0.3 |
| 短期大学全体   |    | 25.4   | 74.6    | 0.0 | 21.6      | 77.5    | 1.0 |
| 高等専門学校全体 |    | 77.2   | 22.8    | 0.0 | 64.9      | 35.1    | 0.0 |

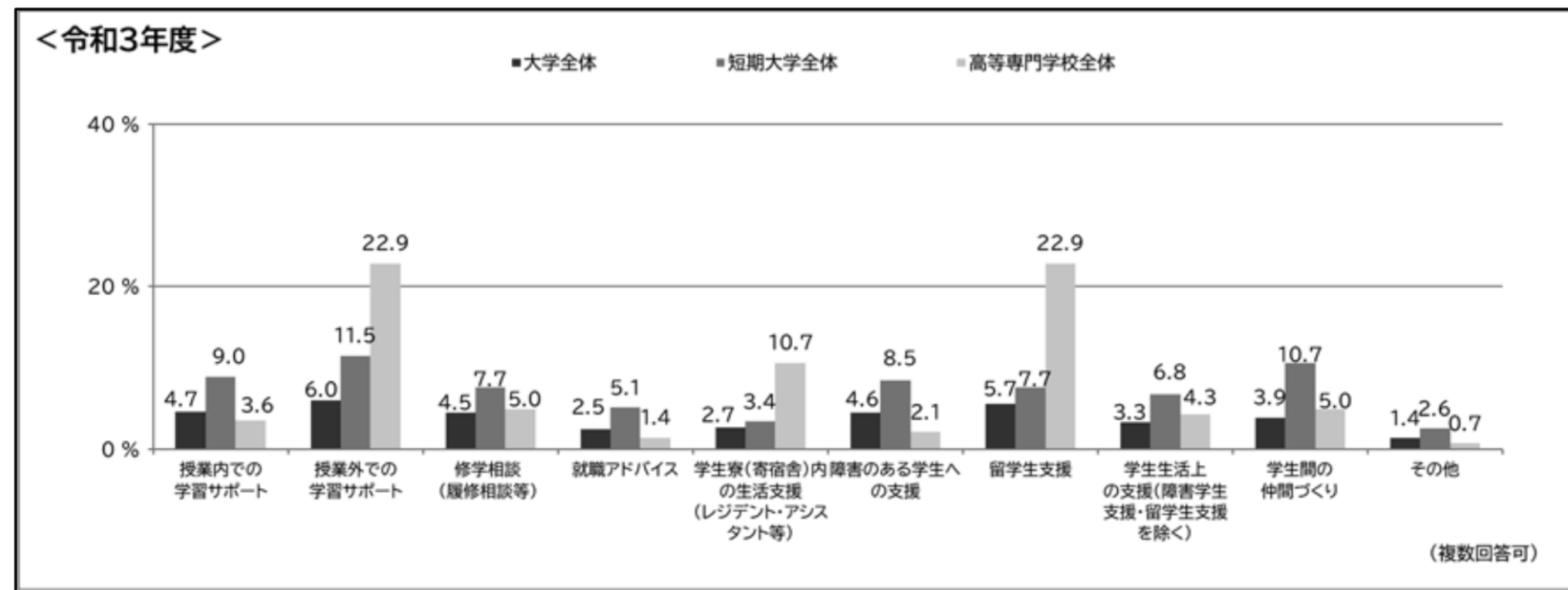
【表18－①】

n=1,162

出典：日本学生支援機構（2022）「大学等における学生支援の取組状況に関する調査（令和3年度（2021年度））結果報告」、60頁。

# ピアサポート (2/3)

<支援領域> ※プログラム単位で算出



【図 18-②】

出典：日本学生支援機構（2022）「大学等における学生支援の取組状況に関する調査（令和3年度（2021年度））結果報告」、61頁。

# ピアサポート（3/3）

- 事例：成城大学（詳細は肥田奈緒子様の後ほどのご報告で確認してください）
  - 「2017年度に、学生が学生に対して学習アドバイスや学習サポート等を行う、「ピアチューター制度」を導入した」。
  - ◆ ピアサポーターの「役割は、ピアサポートルームに設置されたサポートデスクで、学習に関する相談に応じる「学習サポート」と双方向型授業においてグループワークへの助言等を行う「授業サポート」である」。
  - ◆ 特徴的な活動
    - 時間割相談
    - 授業サポート
    - レポートの書き方講座
    - 入学準備プログラムの企画・運営

出典：日本学生支援機構（2024）「大学等における学生支援の取組状況に関する調査（令和5年度（2023年度））実地調査報告」、39-45頁。

# 内部（外部）質保証

## ● 外部質保証

- 例：認証評価機関の評価団の一員として、学生が参画
  - ◆ INQAAHEの外部評価において、大学基準協会は、「**基準策定や実際の評価活動における学生や卒業生の参画**を求められた」（原 2023: 5）。

## ● 内部質保証

- 例：プログラムレビューへの学生参画（筑波大学）
  - 田中正弘（2022）「プログラムレビューへの学生参画—筑波大学の事例から—」『IDE現代の高等教育』No.643、42-47頁。
- 2010年代に隆盛を極めた「学生FD」は最近衰退気味（中里 2024）。

出典：原和世（2023）「INQAAHE GGP アライメント取得について」『じゅあ 高等教育の質の向上を目指して』No.70、5頁。中里祐紀（2024）「日本の大学教育における学生参画の変遷と課題」『比較教育研究』第69号（近刊）

# 北翔大学の学生FD（1/2）



- 学生FD「翔タイム！ 10年後の北翔大学を考えてみよう」
  - 主催：学生FD「北翔アンビエント」
  - 開催日：2023年8月2日(水)
  - 参加者：学生21名／教員8名／職員7名



出典：出典：北翔大学HP「学生の活躍」（<https://www.hokusho-u.ac.jp/info/?i=3442&cat=16> アクセス日：2024年5月31日）

# 北翔大学の学生FD (2/2)

卒業する4年生からメッセージ~PART1~



【氏名】  
直江 隆志  
【学部】  
教育文化学部  
【学科】  
教育学科

私が「北翔アンビエント」に出会ったのは大学1年生の6月でした。その頃は第1志望である国公立の大学に落ちたということから「自分はなぜこんな大学にいるんだろう」という自惚れと劣等感の塊でした。

しかし、北翔アンビエントでの活動を通して色々な人と関わっていくことで「自分はまだまだ未熟だな」ということを実感したり、「出来ないことがあっていいんだ」や「人にはそれぞれの役割があるんだ」という様々な気づきを発見することが出来ました。

もし、入学した当初の自分のまま大学生活を過ごしていたら、世の中の多様性を認めることが出来ずに、自分の殻に閉じこもったまま社会に出てしまい、社会人になっても一生そのことをぼやき続けるような大人になってしまっていたと思います。

このような気づきを与えてくれた今までの先輩方やアンビエントのメンバー、松澤先生と千葉さんには大変感謝をしています。結果的に言うと「自分はこの大学でよかった」と思っています。そう思えたのは、この「北翔アンビエント」があったからだとは今は自信を持って言うことが出来ます。

ありがとうございました。



【氏名】  
松井 亮太  
【学部】  
教育文化学部  
【学科】  
教育学科

僕が北翔アンビエントに入ったのは2年生からです。当時はただ、「道外に行き、他大学の人と交流できる」ことに魅力を感じただけでした。しかし、教員を目指す自分にとって、3年間の学生FD活動から得られるものはとても大きく、間違いなく大きな財産になりました。

北翔アンビエントに入った当初は人前で話すことが苦手で、緊張で頭が真っ白になることが多々ありましたが、今は少なくなりました。自分のコミュニケーション能力に自信がありませんでしたが、以前に比べ自信を持てるようになりました。遠慮をすることの勿体無さを知ることができました。自分の持つ力にもっと自信を持つべきだと実感しました。また学生だけでなく、たくさんの大人と対等に話す機会に恵まれました。社会に出る前にたくさんの経験を積めました。

続けていく中でやる意義を見失い、辞めようかと迷った時期もありましたが、最後まで続けて本当にこの団体に助けられたと思っています。少ないときは3~4人で活動することがありましたが、現在は20人近くまでメンバーが増え、今でも信じられません。

北翔アンビエントには人それぞれの活動する意義があると思います。自分の成長に繋がられるようにたくさんの企画をして、上手く利用して欲しいと思います。今後の北翔アンビエントの更なる飛躍を願っています！

12

私が「北翔アンビエント」に出会ったのは大学1年生の6月でした。その頃は第一志望である国公立の大学に落ちたということから「**自分はなぜこんな大学にいるんだろう**」という自惚れと劣等感の塊でした。

しかし、北翔アンビエントでの活動を通していろいろな人と関わっていくことで「自分はまだまだ未熟だな」ということを実感したり、「**できないことがあっていいんだ**」や「**人にはそれぞれの役割があるんだ**」という様々な気づきを発見することが出来ました。

もし、入学した当初の自分のまま大学生活を過ごしていたら、世の中の多様性を認めることが出来ずに、**自分の殻に閉じこもったまま社会に出てしまい、社会人になっても一生そのことをぼやき続けるような大人になってしまっていた**と思います。

# 学生FDの利点・欠点

- 利点は、①意識の高い学生で構成されること、②学生の主体性が尊重されること、③従来のFD委員会を改組しなくてもよいことなどである。
  - 参画した学生の成長を期待できることも重要
- 欠点は、①学生の改革案を学生が議決する権利がないこと、②属人的な取組で永続性に問題があること、③学生FDは「楽しくなければならぬ」（大崎 2012: 143）ことなどである。
  - 「楽しくなければならぬ」理由は、権利でも義務でもなく、興味で参加している学生をつなぎ止めるためである。
  - それ故に、学生FDはイベント（お祭り）活動に偏る傾向が見られる。

出典：大崎雄二（2012）「『社会学fes』運営委員会」木野茂（編）『大学を変える、学生が変わる』ナカニシヤ出版、127-146頁。田中正弘（2018）「日本の大学における学生参画—質保証への参画を中心として—」『大学研究』45、17-29頁。

# 大学ガバナンス

- 大学ガバナンスへの学生参画は、ほとんどみられない。
  - 特に、意思決定組織への参画には強い抵抗感がある。
- 事例：
  - 創価大学における、教員・職員・学生・理事会の四者による「全学協議会」
  - 立命館大学における、「全構成員自治」の考え方に基づいた「全学協議会」
  - 龍谷大学（詳細は石原芳典様の後ほどのご報告で確認してください）

意見聴取に留まる？  
学生に決定権はある？



## 4. 参画する学生

# 参画する学生

- 学生の誰が、
  - 選挙？ 推薦？ 指名？
- どの会議に、
  - 学生教員協議会（懇談会）？ 理事会？ 教授会？
- どの立場で、
  - 情報提供者？ 協働者？ 改革主導者？
- 何を目的に参画すべきか？
- 上記について、大学と学生が同意書を作成するのが望ましい。



## 論点

学生参画の効果的な  
実施方法とは？

# 個人的な意見

- 内部質保証への学生参画を効果的に実施するためには、、、
- 大学ガバナンスへの学生参画が欠かせない。
- なぜなら、
- （ガバナンスへの参画が欠けると）学生が改革案を提示しても、その案がその後に学内でいかに扱われたかを確認できないため。



- 学生に徒労感を与えてしまうため、内部質保証への参画も、形骸化すると予測できる。

# ディスカッション

- 参加者数名（3名程度）でグループになって、以下の四つについて話し合ってみてください（7分程度）。

- ① 学生の誰が、
- ② どの会議に、
- ③ どの立場で、
- ④ 何を目的に参画すべきか？



## 5. 今後の可能性

# 今後の可能性

- 学生参画はやがて義務化されるだろう。
  - 欧米では当然視されている（外圧の予感）。
  - 認証評価の評価基準に盛り込まれる（外圧の予感）。
- では、何から手をつけるべきか。
  - ピアサポートと学生FDは、比較的容易に実施可能
  - 内部質保証のプロセスに参画してもらうなら、その下準備が肝要
    - ◆ 学生の「**代表性**」の確保が高難度
    - ◆ 大学ガバナンスへの参画も同時並行で実施

なんでもやってみなはれ、  
やらなわからしまへんで

(鳥井信治郎：サントリー創業者)





ご清聴ありがとうございました。